

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所概要(事業所記入)			
事業所番号	3272200266		
法人名	社会福祉法人 隠岐共生学園		
事業所名	グループホームいこいの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町栄町 1076 - 1		
自己評価作成日	平成23年1月11日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目 9 - 16
訪問調査日	平成23年1月26日

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

グループホームいこいの家は周囲を緑に囲まれた高台に位置し良い立地環境にあります。敷地内にある畑では利用者を師に、野菜作りを行い、その成長を楽しみ、収穫して職員と共に調理を行ったり、花作りを楽しんでいます。日常生活においては、その人らしい生活環境の設定や生活を重視し、穏やかな生活が出来るように支援しています。又、残存能力の活用のため、本人や家族の意向を尊重しながら日々ADLの低下、QOLの向上に本人と職員と同じ目線で取り組んでいます。又、家族や地域との関係者と連携をとりつつ地域との繋がりを重視しています。グループホームを生活の拠点としている利用者は笑顔や穏やかな表情で日々の生活を送っています。安心して安全な生活が継続できるよう職員が一丸となって支援をしています。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

この地域で最初のグループホームとしてスタートして11年が経過しており、地域との関わりやケアの中など随所に歴史を感じることができた。職員構成は年齢、経験等さまざまではあるが、資格取得を目指す人や、より多くの研修を望む人など、向上心豊かでチームワーク良好何事にも、前向きに取り組んでいる姿勢が見てとれた。入所者は認知症に加え、年数が増し重度化しつつあるが、同法人のグループホームとの協力体制も良く、独自の研修に取り組み、より良いケアの実践に繋げている。重度化や終末ケアに関しては、法人全体での受け入れ体制があるが、看護体制を整える必要性はあり、この点については法人全体で検討され、今後も地域の核となる事業所として、より良い認知症のケアに取り組んでいただきたい。

.サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと動けている (参考項目 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)+ (Enter+)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
実践状況					
次のステップに向けて期待したい内容					
理念に基づく運営					
1	Q1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し業務の実践が出来るように事業所内に掲示を行うとともに人事考課制度の中でも基本事項として掲げ、実践確認を行いフィードバック等で共有し又、新任職員にも周知できるように研修を行っている。	職員には理念を把握しているかを問い、常に再確認をさせるようにしている。年頭に於いても所長より話してもらっている。ホーム長自ら研修に参加し理念を共有することの重要性を職員に伝え、業務に反映させている。	
2	Q2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや文化祭等には積極的に参加している。また、学生のボランティアの訪問、地域の婦人会や団体等の民謡の会や舞踊の会の訪問等があり、地域との交流を深めている。	地域の行事には積極的に参加し、日頃から交流を深めている。隣近所の人とも、畑作りなどを通して親しい関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症に関する事、グループホームのあり方についての質問を受ける事が多々あり認知症についての症状や支援の方法を話し、地域の方々に理解をして頂けるように取り組んでいる。		
4	Q3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域代表者や行政関係者で定期的に開催を行っている。グループホームの現状を報告し、会議で提案のあった事項は検討を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	2か月に1回定期的に開催。案内状を出し、電話で呼びかけたりして、多くの家族の参加を得ている。地域の方や行政関係者、利用者も参加され意見交換等積極的に取り組まれている。	
5	Q4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修会や、介護教室などの参加を通して連携を行い、運営推進会議でもサービスの取り組みを報告しながら、助言を得たり協力関係を築いている。	1年に数回、地域包括主催の地域密着型小規模事業所の会に参加し、情報交換や研修を行い、業務改善等に反映させている。行政関係者とは何かにつけて相談したり交流を深めている。	
6	Q5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会、グループホームでの身体拘束廃止検討会を組織し、指針に基づいて対応している。業務検討会において、日常的なケアが身体拘束に該当しないか等常に検討を行っている。玄関の施錠は行っていない。	事業所の指針を基に、身体拘束廃止検討会を定期的に開催し検討を続けている。身体拘束をしないケアを実践しているが、日頃のケアを反省するため、顧みる機会ととらえ繰り返し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、施設の研修会、地域の研修会において「施設における高齢者虐待・身体拘束・事故対策防止策・事故発生時の対応」等の研修が数回開催され学ぶ機会を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業該当者の入所者があり、現在成年後見制度申請中である。社会福祉協議会の担当者とその都度連携を図り勉強中である。又、業務検討会議でも話し合い、制度に関しての理解を深めるようにしている。		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、介護報酬等の改定時に、契約内容及び重要事項説明書に基づいて説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、利用者・家族と話し合いの場を設け意見や要望を聞いたり業務検討会で検討を行い、第三者委員に2,3ヶ月毎に来て頂き、利用者及びご家族の意見や要望に対応をしサービス等に反映させている。	サービス計画の更新時など日頃から利用者や家族の方の意見を聞く機会をつくるようにしている。第三者委員の方にも定期的に来てもらい、要望等聞き出し、業務改善に生かすようにしている。	
11	(7)	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、業務検討会やミーティングにおいて、職員の意見を引き出すように努め意見や提案はその都度検討を行い業務に反映させている。	業務改善会議や人事考課の際にも意見を聞くようにしている。法人全体でも移動時や更新時などに機会を設けている。また親睦会を行い意見の出しやすい人間関係作りを行っている。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績は法人の人事考課制度で反映させ、職場環境においては職員衛生委員会で検討を行ったり、各自が向上心を持って業務を遂行出来るように努めている。		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の評価は人事考課制度での力量の把握を行ったり、事業所内外で開催される研修は、多数参加するように促している。又、専門職のライセンスを取得しレベルアップが出来るよう取り組んでいる。		
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所交流会等での交流、勉強会を実施している。又、圏域老人福祉施設協議会開催の研修会に参加を行い各グループホームの職員が交流したり意見交換や勉強を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネからの事前情報等で生活や性格、身体状況等を把握し、グループホームに本人、家族に見学に来て頂き、質問、疑問等に答え信頼関係を築くとともに利用開始にサービスの相違が生じないように対応している。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報を基に対応が出来るように準備を行っているとともに、利用時には必ず家族の思いや要望等を尊重し実践するようにし信頼関係が築けるように努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時の計画書作成時に本人・家族の意向を尊重し必要としている支援内容を織り込むとともに本人に必要な他のサービス利用が必要であれば対応できるように努めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアや支援の目線を同じ位置から捉え本人に何が必要なのか、何を要望しているのか同じ家庭内で一緒に暮らしている者として理解し共に暮らしている者同士の関係を築いている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら家族の面会を促したり、本人の思いを家族に伝えたり、日常の支援を家族と共にやっていけるように配慮している。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷訪問等で、知人や友人に会ったり、来所して頂いたり、馴染の関係が継続するように努めている。又、地域の行事に出かけたり、墓参り等の希望がある時には一緒に行くなどして一人一人の生活を支援している	友人知人の方も高齢化し、来所する人は少ないが、ふるさと訪問等で出かけて行き、会う機会を作るようにしている。地域の行事にも積極的に参加することで、馴染みの関係が続くよう支援している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々変化する事もあるが、個別に話したり、気の合う人と話したり、また音楽やゲームをしたりして利用者同士の関係がうまくいように配慮している。職員も間に入って楽しみ、潤滑油の役割が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用 (契約) が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了 (他施設等へ移動) しても家族からの相談や情報を大切に経過のフォローを心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、常に声をかけをし、本人の思いや意向を把握するように努めている。又、本人の意向が困難な場合は日常生活の中から見つけたり、家族からの情報も得るようにして意向の把握に努めている。	今までの生活歴、生活状況の把握等利用者本人や家族からの聞き取りを重視している。普段の生活の中でもできるだけ声がけを多くし意向の確認ができるようにし、家族からも意見を聞くように心掛けている。	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のケアマネージャーから情報や自宅を訪問したり、利用者のこれまでの生活環境、趣味、思いなどを把握するように努めている。		
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去の生活を理解し、一人ひとり一日の過ごし方や本人が何ができるのか本人の小さな動作や心理面を見逃さないように情報を共有している。		
26	(10)	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を尊重しながら、関係者で本人にとって何が優先なのかを見極め介護計画を作成している。モニタリングについては、随時行っている。	利用者本人や家族の意向を聞き、日々のケア記録を基に、計画作成者を中心に職員で話し合いながら介護計画を作成し、随時モニタリング、見直しを行っている。	介護計画を意識した声がけや、目的にそった記録の充実により、より良い介護計画の作成に繋がっていただきたい。
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にファイルを用意して、食事、排泄等の身体状況、またその日の精神状況などに日々の暮らしの様子を記録している。それらはいずれも職員が閲覧できるようにしている。		
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の様子に応じて変化するニーズに対応し、何が現在本人に必要なのかを常に意識したり、職員間で検討を行ったり柔軟な対応が出来るような取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との接点を見出すようにし、地域の婦人会や学生等のボランティアに来て頂いている。 又、公営の図書館を利用して、本の貸し出しをして利用者の方に楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医に受診をしたり、受診、通院はできるだけ本人や家族の希望に応じて、柔軟な対応に努めている。家族に同行して頂いたり、その都度報告したり相談を行っている。	利用前からのかかりつけ医を継続することはでき、夜間も対応可能なホームの主治医も確保している。定期的な状態報告もされ、大事にならないように常に情報交換しながら支援する体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、午前・午後のバイタルチェックで、身体状況の把握をし、又、異変時には、主治医や併設に協力を仰いだり、訪問看護師に連絡を行ったり適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、頻回に訪問を行い、主治医、看護師、家族と連絡を行い、できるだけ早期に退院できるように、情報交換や相談を行っている。入院時に連絡方法等を主治医及び看護師との面談により関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族・及び関係者と重度化や終末期についての意志等の確認を行ったり、隣接の他サービスの利用等本人・家族の意向を含めて地域の関係者とともに情報の共有を行いながら支援に取り組んでいる。	終末ケアの希望はあるものの、看護体制などについて入所時に十分説明を行い、また変化に応じて必要時に話し合いの機会を持ち、医師の支援の基方針を決定するようにしている。法人全体で看取る体制もあり、家族等の安心感に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策等のマニュアルを活用し業務検討会で周知徹底を行っている。また、消防署などの応急手当の研修会等には、できるだけ多くの職員が参加し、初期対応ができるように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に避難訓練を実施。又、毎月小規模訓練を行い、避難通路の確認や消火器の点検など実施し、運営推進会議で、行政や地域の代表の方と防災について話し合い、実際に協力をお願いしている。	定期的な避難訓練に加え、毎月ホーム内でも小規模な訓練を実施している。日頃から地域や行政との関わりも強く、防災時の協力体制は築かれている。	火災等の訓練だけでなく、さまざまな犯罪や不審者への対応など、幅広く捉え対応を検討いただきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時は声かけやノック、戸の開け閉めに留意しプライバシーの確保をするように徹底し、業務検討会では職員の意識向上を図り、日常の関わりの中でも、プライバシーを損ねていないかを常に意識しながら対応している。	入浴時や排泄時の介助もきるだけマンツーマンで行い、ドアを閉めて介助するなど、常に基本を忘れないように、声かけ等も含め業務検討会などで取り上げ意識した形で実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの理解力やコミュニケーション能力に合わせた話しかけを行い、本人の思いや希望を引き出すように働きかけを行っている。常に主体性を尊重し、本人が自己決定できるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や思いを尊重して、個別的な過ごし方をして頂くようにしている。入浴時にも本人の状態により、時間の変更をおこなったり、食事時間の変更等1日の本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中でも行事等でメリハリをつけ、その時に応じたの服装の支援や、整髪については希望があれば馴染の美容院に行ってカットやパーマをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リンゴの皮むき、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き等調理や片付けを利用者と一緒に行い、楽しい食事の雰囲気作りを演出するようにしている。ホームで作った野菜と一緒に採り、それを楽しみながら調理している	食器拭きやテーブル拭き等利用者のできることは手伝ってもらっている。利用者が野菜作りの師になって、ホームで作った野菜を使い調理も楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣設の管理栄養士の協力で個々の食事残量チェック、水分チェック表を使用している。、又、利用者の希望食を献立に織り込んでいる。個々の嗜好を尊重し、バランスの取れた食事と脱水予防を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	隣接施設での口腔ケアの研修会や地域での研修会には積極的に参加するように努めており、口腔ケアの重要性について認識し、毎食後の歯磨き等を、声かけして習慣づけるようにし口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	Q16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の使用で排尿、排便の内容等の把握を行い、できるだけ自力で排泄を継続するように、時間置きにトイレ誘導を行っている。又、歩行、車椅子介助で残存能力の活用をしながら排泄介助を支援している。	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように誘導している。重度のおむつ使用者にも、不快な思いをさせないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には、食物繊維の多いメニューを取り入れるよう工夫がなされている。日中は体を動かすようにするために体操や音楽を使った運動を取り入れるようにしている。又、主治医にも相談を行い常に指示を仰いでいる。		
45	Q17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望や身体状況、精神状況を考慮しながら入浴を行っている。介助が必要な方には、安全面に気を配り、その人に合った介助用具を工夫して入浴を行っている。	利用者の意向にそった対応を重視し、入浴時間や回数などを決めている。介助の必要な方にはシャワーチェアなどを利用し安全に入浴できるようにしている。入浴ができない重度者は清拭等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のパターン把握し、日中はできるだけ作業療法、体操、音楽療法などで対処し、個々の体調面や表情等に気を配り、休息を入れるように配慮し不眠時には、居室やロビーで一緒に過ごして安定した気持ちになるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、効能効果、薬に対する注意事項等を閲覧し、全職員が理解し、業務検討会で薬の処方が変わった場合は内容確認し状態変化があれば、直に医師に報告する体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等考慮し、調理や食事の片づけ、洗濯たたみ、生花等各自が得意の力を発揮できるように働きかけ、笹巻き作りやおやつ作りなど、職員も昔の行事や慣わしを楽しみながら教えてもらいコミュニケーションの場としている。		
49	Q18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節毎に花見や祭り見学、紅葉見学などを計画し、また、利用者の希望に応じてドライブやショッピングに出かけ、外出する機会を多く作っている。墓参り、自宅、故郷訪問等柔軟に対応している。車いす利用者にもその日は職員数を増やしてできるだけ希望に沿うように対応している。	利用者の希望を重視して出かける機会を多く持つようにしている。時には全員で買い物に行き、共通の楽しみを味わっている。車いす使用者の外出には、職員数を増やし希望に沿うようにすると同時に安全面にも配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピング等で買い物の値段を考えたり、品物を見極めたり、可能な限り金銭の取り扱いを本人が出来るように支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人が電話したい時は、事務所の子機を居室まで持参し、他の方に気を使わずに話が出来るようにしている。手紙や、季節ごとの葉書を出す場合は書き方等の支援を行っている。		
52	(19)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームなどには常に季節の花や観葉植物、利用者の作成した掲示や展示をおこなっている。デイルーム天井のプロペラで空気を調整し、冬には椅子式の炬燵使って家庭的にくつろげ、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	共有のデイルームにはその月の歌や展示物が掲示してあり、季節感が感じられ楽しさが伝わってくる。季節の花や観葉植物はほっとする気持ちにさせ、明るい空間は心やすらぐ場になっている。また、車いすの移動がスムーズにできるスペースもある。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置で一人で過ごしたい時はゆっくり過ごせるように配慮し、また、利用者同士で歌ったり、お茶を飲んだりする機会も随時設けており、その時の状況を勘案し、一人ひとりの居場所作りを行っている。		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、使い慣れたものや好みの家具を置いている。家族と一緒に写った写真などを飾ったりして、本人がくつろげて居心地の良い居室になるよう配慮している。	利用者の意向でベッドか畳かなど選ぶことができ、ゆったりとした広さがあるため、こたつを置いてくつろいでいる人もいる。使い慣れた用具を持ち込み本人が家庭と同様に過ごせるように配慮している。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置や入浴時の衣類の場所、食事準備や場所等わかりやすく張り紙を使って誘導したり、コンセントの注意やテレビ位置等災害時を考慮し安全で事故のないように取り付け自立と安全に工夫を行っている。		